

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第17回保育園・学校部会」 会議録

日時 令和元年12月3日 午後5時00分

場所 地域交流センター 第3研修室

出席委員 市川祥介(麻績村教育委員) 小山正文(麻績村教育委員)  
中原 敏(筑北中学校長) 赤羽利樹(筑北中学校教頭)  
福田弘彦(麻績小学校長) 高野恵理(麻績小学校教頭)  
鳥海 康(麻績小学校教務主任) 宮川裕満(学校組合教育委員)  
塚原明水(学校連携支援員) 高野羊子(麻績小学校 PTA 会長)  
刈間伸一(麻績小学校前々 PTA 会長)  
藤原宗功(筑北中学校 PTA 会長) 山本一義(筑北中学校 PTA 前副会長)  
小山芳道(筑北中学校前々 PTA 会長)

欠席委員 峰田由紀子(筑北中学校教務主任) 臼井孝夫(麻績保育園長)  
柳澤友則(麻績小学校前 PTA 会長)  
山本一義(筑北中学校 PTA 前副会長)

教育委員会事務局 飯森 力(教育長) 臼井太津男(教育次長)

傍聴者 0名

## 1. 開会

**教育次長**：定刻となりました。麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第17回保育園・学校部会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。本日教育長は所用で欠席させていただきます。それでは部会長あいさつをお願いいたします。

## 2. 部会長あいさつ

**部会長**：皆さんあらためてこんばんは。一日のお仕事でお疲れのところ、しかもお寒い中ご都合つけてご参集いただき誠にありがとうございます。教育長におかれましても議会の真っ最中のご多忙の中ありがと

うございます。随時ご指導お願いします。さて、前回9月19日から今日まで各小中学校で振り返った資料をいただいておりますが私からも5点申し上げたいと思います。1点目、小中学校はそれぞれ研究事業を公開し小中学校職員のみならず地域の方も参加して研修を深めていました。保育園も小学生、中学生の実習等にご協力いただき、それぞれ理解を深めて参りました。このことの意義というか価値というのは次長が10月の館報に上手にまとめてくれていますので是非お読みください。あわせてふるさと学習や国際理解教育などもさらなる活動が展開されて大変有難いなと思いますが、後ほど報告いただけるものかと思います。2点目、10月31日に信濃町で小中一貫校の実践を研修してきました。そこで麻績村の取り組みの先見性に気付かされました。後ほど会議の中で申し上げます。3点目、麻績村のみならず県下各地で一貫教育に向けた取り組みが進んでおります。関係する校長先生とか教委に直接伺ったところだけでも、生坂村はもちろんですが、あの大きな諏訪市でも併設型で小中一貫教育を始めるという取り組みを伺っております。また塩尻市の檜川では義務教育学校の立ち上げのスケジュールまで出来て着々と進んでいるようであります。4点目、ICT教育であります。読売新聞には国では子どもたち一人一台ずつパソコンかタブレットを持たせたいという方針を固めたという記事がありました。この方針をやっと国が固めたかという感じですが、麻績村ではすでに教育長はじめ事務局では予算化を頑張っておいて着々と進めていただいております。この辺にも麻績村の先見性を感じているところであります。5点目、今月小学生が4日間中学校の入学体験をするということで、両校の職員は非常に負担が増えるので申し訳ないと思いますがこれこそまさに見える化で、村民にも非常に分かりやすい実践だなと感じています。後ほど詳しくお話を聞きたいと思います。以上5点ですが、今年の流行語大賞が『ONE TEAM』だそうです。この会が元々はチームでやっている点も先見的だなと思いますが、これからも残り4か月を切っていますが『ONE TEAM』でお互いに頑張っていきたいなという決意をもってあいさつに代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

### 3. 協議事項

**教育次長**：それでは、協議事項に入りたいと思います。協議につきましては、部会長に進行をお願いいたします。

#### (1) 前回の部会（9/19）の再確認

**部会長**：それでは、前回の部会（9/19）の再確認ということで事務局から説明をお願いします。

**教育次長**：それでは、私の方から前回の部会の内容について簡単にご説明いたします。6項目あげましたがこちらにいての進捗状況等を重点項目ということでそれぞれの担当の方からお話していただきました。その他保護者からの意見要望という部分につきまして、情報発信の必要性でありますとか情報が見えないことに対する不安や不満という部分のご意見をいただきました。また、情報とか説明することを分かりやすく広く行うことの必要性という部分について強調した意見をいただきました。あとは今日の議題にも載っていますが視察研修ということで10月31日に行われました信濃町小中の学校づくりを考える日への参加ということで決めた部分でございます。

**部会長**：何かご質問ご意見付け足し等ございましたらよろしくをお願いいたします。よろしいでしょうか。それでは次に移ります。

#### (2) 視察研修の報告等について

**部会長**：信濃町の研修について事務局から説明願います。

**教育次長**：10月31日に信濃町立の信濃小中学校というところ、ここは小中一貫の施設が一体になった学校であります。こちらの学校づくりを考える日ということで全県あるいは全国にPRされたものでございます。以前からどこかへ視察にという話がありましたので今回こちらへ視察を行ったところでございます。平日でありましたので業務の関係等で参加できなかった方もいらっしゃいますが、中学の方を中心としてPTAの皆さんもご参加いただきありがとうございます。今回その時の資料ということで付けさせていただきました。信濃町の概要から始まって経過、どんなものを目指していくのか、どんな形で進めていくかということ、小中一貫校の取組にも型がある

ということも載っている資料ですので参考になるかと思えます。資料の中に小中一貫教育の3つのスタイルということで小中一貫の学校でもいろんな形があるということも見て取れるかと思えます。設立の経過等も含めて非常に参考になる資料ではないかと思えますのでご参考にしていただければと思えます。今回信濃町の小中学校につきましましては長野県下でも初めての小中施設一体型の一般校ということで、この立ち上げにつきましましては小中の方でも講師として来ていただいています信州大学の伏木先生が立ち上げの所で非常にご尽力されている学校であります。また中学の赤羽教頭先生につきましましては以前に信濃町の方に赴任していたという部分もありますので助かった部分もあります。信濃町につきましましては小学校が5校と中学校が1校ということで、この6校があわさった学校ということで現在の児童生徒数も493人と麻績とは全然違った形でありますけれども、実際に校舎の中に入って見てどういう形になっているかという部分が肌を感じる事が出来て分かりやすかったかなと思えます。そこで行われた授業については特筆すべきところは感じなかったのですが、一番大事なことは同じ施設の中で同じような形で皆が生活しているという部分が大きいかなと思いました。その割に全体の施設が大きいという感じがしなかったんですが、木をふんだんに使われた校舎で太陽光も結構入ってきていて非常に明るい学校だったなと感じました。

**部会長：**最初に参加された皆様のご意見等をお伺いして最後に皆様の方から質問等していただきたいと思います。中学校の方から代表の方をお願いします。

**委員：**中学の方からは私と校長先生の2名が参加させていただきました。ありがとうございました。次長が今言ってくださったように非常に素晴らしい校舎で、施設がワクワクするような施設だったかなと思えます。そこに集う子どもたちも非常に活気があるなと思ったことと1年生から9年生までが安心して生活しているかなという表情が伺えたと思えます。安心した表情というのは麻績の小学校、中学校にもありまして、麻績小の子どもたちが今年文化祭とか運動会に来て下さった訳ですが、そこでも同様の表情が見れたかなと思えます。課題としては授業は麻績小学校や筑北中学校の方でもっと良い授業をやっているぞと純粹に感じてそこは自身持てる所かなと思いまし

た。麻績村の目指すべき方向は間違っていない、この方向で間違っていない取り組みをしているんだなと思わせていただいて自信を持って帰ってきた一日でありました。

**部会長:** ありがとうございます。それでは保護者の方からお願いします。

**委員:** 初めて見に行った学校でそこにいる生徒さんたちが非常に活発に行動しているなということは感じました。信濃町の場合は小学校と中学校が一体となって一つの校舎という形ですので、その中で連携は取りやすいのかなと感じました。麻績の場合だと校舎も違いますし距離もあるという中で同じように一貫教育を目指すという感じと信濃町のように新しい建物が出来て、そこからスタートだよと目を見たところから変わっているという所から比べると麻績の場合だとそういうロケーションとかは変わらずに考え方から変えていくんだということで、中々見えにくいところからのスタートというのは本当かなと私は感じています。先生たちも距離のある中で連携を取っていかなくてはいけないという所が一番大変じゃないかと思います。一緒になっていない中での取り組みというのは信濃町とは違った苦悩がこれから出てくるかと思いますので時間をかけながらも一つ一つ改善していけたらと思います。先程お話がありましたが教育自体は信濃町に負けていないと非常に力強い言葉もいただきましたので、それを大事に先生一人一人が感じながらそれが保護者に強く伝わってくるという形がいいのではと思いますので、私たちもそういう所に力を注いでいきたいと思いますので先生方に頑張ってくださいなと思います。

**部会長:** 付け加えがありましたらお願いします。

**委員:** 小中学生一緒にいるのが当たり前という雰囲気はすごく自然で良いなと思いました。後の分散会で同じ保護者の立場で参加された方が特別支援のお子さんがいたと思うんですけども、大勢の中が苦手だというお子さんでそれが学校生活の中で良いのかどうかと思って参加したと言っていました。400人以上の中で1人を見ていくというのは大変かなと思ったんですが、麻績小学校や筑北中学校は小中の関わりもありつつ個々を見ていける安心感があると思って自信を持って帰ってきました。

**部会長:** 私の方からも1点お願いします。今回の発表が教育過程に重点を置いたこともあるかと思いますが、小中の学校教育ということでは非

常に力を入れてやっているんですが地域との関わりや保護者との関わりをどうするかというところはそこまで資料にも載っていませんでした。一貫教育を学校でやっていくんでは無くて私ども麻績村の場合は地域で一貫教育をやっていく、保護者も含めた上で村として一貫教育をやっていくという考え方は麻績村独自であり、非常に先見的なものであると感じています。学校のカリキュラムの研究だけだったら小中一貫は割合と簡単に出来ると思います。校長先生同士で話し合っただけで何とかやれば出来そうですが、村をあげて地域も一緒になって一貫教育をやっていこう本村の大変なところであり先見的なところであると感じています。今日までのところで小学校中学校の取組について小学校から発表をお願いします。

**委員：**お願いします。9月から今日までの部分で時系列で並べた資料を用意しましたのでご覧ください。一貫教育ということを狙って何を教えるかでは無くて、日々教えていることが一貫教育に繋がっているんだなと感じました。中学校の方からは4つの観点からの書き方で出ているので被るところもあるかと思いますが参考にさせていただきたいと思います。

**部長：**続けて中学からお願いします。

**委員：**資料をご覧ください。中学校の今年度の重点項目について中間報告ですが小学校では時系列でまとめましたが中学校では4つの重点で書かせていただきました。学力向上についてですが、授業づくり個人研修を中学校では取り組んでいますけれども二学期は理科、特別活動、英語、音楽、国語の個人研修授業を計画したり行ったりしました。研修を通して小中で目指しています交流型学習、主体的で対話的で深い学びの授業づくり授業改善を日々研修しています。こちらには毎回小学校にも声掛けさせていただいて毎回小学校からも可能な先生が来て共に勉強してもらっています。小学校も中学校も同様の交流型学習、主体的で対話的で深い学びをしていこうということで今年1年共に勉強させてもらっています。文部科学省指定の人権教育研究発表会も前回紹介させていただきました11月28日に長野県内から55名の教育関係者または保護者の方にもお越しただいて開催しました。この中で交流型学習での社会の授業を公開させていただいて、こういう学びが人権感覚を高めているという事例発表を見ていただいて先生方からもまずまずの評価のお言葉をいた

できました。続いて小学校からも話がありましたが、麻績小学校の研究授業が二学期に2回全校研究授業がありましてそちらの方に中学も可能な職員が参加させていただいて共に勉強させてもらうということもやらせていただいています。そんな取り組みをしながら小学校も中学校も同じように交流型学習を進めていく、子どもたちの人権感覚を高めたり学力向上に寄与したりということを目指しています。2点目国際理解教育ですが、11月25日に信州大学在学のロシアからの留学生に来ていただいて全学年交流学習を行いました。ロシアの紹介ですとか、ロシアの学生とのゲームを楽しむ中で異文化に触れるということをしていただいております。ふるさと麻績を愛し世界に羽ばたく人間の育成、または世界の文化に触れて広い視野を持って社会に羽ばたく人間の育成という辺りを狙ってさせていただいています。三学期も行う予定です。3点目ふるさと学習ですが、麻績小学校にもありますようにふるさと麻績を愛する人間の育成ということで取り組ませていただいています。3年生ですが地域活性化案というものを考えて村の方に提案したいということで義務教育最後の集大成になりますが取り組んでいます。続いてコミュニティスクールです。こちらは小学校中学校ともにコミュニティスクールの充実によって地域とともにある学校づくり、学校が主とした地域づくりを目指したいなということでもあります。コミュニティスクールのことをチーム筑北と呼んでいますが、学校支援部の活動として放課後学習に塚原明水先生には理科を見てもらったりと毎週水曜日に理科、数学、英語の支援をしてもらっています。それと教育委員会に主にやってもらっていますが学びの広場ということで10月から1月の土曜日開催で全8回で主に3年生の受験生が受験対策として参加させてもらっています。こちらの方も教育委員会、地域との協力によってということが進めさせてもらっています。子どもたちですが、このような取り組みの中で地域の方に見守られている安心感であるとか地域の方と日常的に挨拶を交わしあう喜び、充実感を感じながら生活してくれているんじゃないかと思って見ています。今年1年やらさせていただいて思うのは、麻績村というのはコンパクトな地区で小中学校も連携がしやすいし一貫教育もしやすいところだなという長所を生かしながら、12年間で同じ思いというか教育理念で子どもたちを育てていけるということはずごくこの

村の強みだなど今年1年思いながらやらせていただいています。子どもたちにとっては麻績村で育ってよかったなと思える子どもたちになって欲しいし、保護者にとっては麻績村で育ててよかったなと思ってもらえるような教育をしていきたいなと思ってやっております。

**部会長:** 出されている資料は今までの所ですが、質問ご意見等ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それではその他保護者や教育委員会の皆さんでこういう事をやってきて伝えたいということがありましたらよろしくお願いします。よろしいでしょうか。それでは次に進みます。

### (3) 小学校6年生の中学校体験について

**部会長:** 小学校の方から説明をお願いいたします。

**委員:** 12月17日から20日までの4日間になりますが、今の6年生が全員で中学校の教室を借りて授業をやらせていただくという体験をすることになりました。当初は16日月曜日から5日間という話でしたが都合により4日間になりましたが、今まで1月に一日体験ということでやっていたことから比べると4日間ということで大分長くなります。そして中学校で給食を食べ、縦割り清掃をして帰るといような丸々中学生体験という形になるかと思います。中一ギャップということで中学校に何も知らずに上がって色んな変化に戸惑ってしまう、スタートを出遅れるということも世間では言われております。そういう抵抗を少なくして滑るように中学校に進んでいけるといいなという思いがあります。現在の担任の先生、一番安心できる先生と一緒に乗り入れることで根本的な不安などがかなり薄れるのではないかともありますし、一日体験だけでは緊張していて何が起こったか分からない内に終わってしまうということにもなっていたかと思います。それがこの4日間の経験でまた違った形の結果が出せるのではないかなと思っています。中学校の先生には本当にご苦労いただき、ご迷惑かけるかと思いますが中学校の英語の授業とか音楽の授業とか他にもいくつか出来るものがあればという話になっていると思いますが、中学校の先生が授業をしてくれるという教科も組んであります。子どもたちも大変楽しみにしてい

ます。本当は歩いていったらどうかという話も危険性が伴うということもあり、バスで行き来させていただくことになっておりますが大変いい経験が出来るのではないかと考えて期待をしております。

**部会長**：続いて中学校の方からお願いいたします。

**委員**：今もお話がありましたが、一番は中一ギャップという小学校から中学校へのスムーズにいかない接続を失くしたい、スムーズに接続させたいという所が狙いかなと思います。もう一つが小中一貫の大事なことで、こういうことをやることでどの子ども受け入れるというか多様な関係作りの資質を高めることにも寄与できるのではないかと考えて両校長先生中心に計画をしていただきました。小学校から中学で中学校の先生方にどんな授業を体験させていただけますかということもありますが、体育でありますとか、音楽ですとか英語ですとか可能な先生方を入れさせていただいて中学の授業を体験してもらおうということを計画しております。給食は4日間すべてランチルームで小学校6年生と中学生と一緒に取るということを行いますし、清掃も本校では縦割り清掃をしていますがそこに6年生も入ってもらって6年から3年までがそれぞれの分担で一堂に会して縦割り清掃をするということを計画しています。部活動体験に関しては、中学で行われています部活動の体験をしてもらって4月までに何の部活に入ろうかなということも考えてもらったり、夢を持っていたきながら中学入学を迎えてもらえればなということも考えております。金曜日の4時間目にビブリオバトルというものが入っていますが、これは本の紹介を対戦形式でやるということか誰の本の紹介がもっともワクワクしたか、魅力的であったかというものを投票で決めたりするんですが、そういうものを小中合同でやりたいということで計画をさせていただいています。授業についてですが中学は50分授業で小学校は45分授業ですが、中学の50分授業にすべて合わせて50分という長さを体験してもらったりということも考えています。初めての取組ですので上手くいかないところもあるかと思いますが、この取り組みは恐らく長野県下でもやっている所はないのではないかと考えています。保護者の皆様も何かご意見がありましたらお寄せいただいで生かしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。続いて小学生への読み聞かせについてですが、こ

れも小中一貫の取組ということで付けさせていただいています。麻績小学校と今年までになります。坂井小学校に行って、生徒会の生徒たちが読み聞かせを行う良い取り組みではないかということで付けさせていただきました。

**部会長:** ありがとうございます。両校長先生から付け加えがありましたらお願いいたします。

**委員:** 今お話しがあった通りで、受け入れていただく中学校の先生方のご配慮というか授業のことも含めてですが、部活の体験も中学校の部活の時間と違う所に入れてくださったりだとか、昨年度経験させていただいたビブリオバトルをこの中に入れてくださっているとかも、本当に前向きに考えてくださって先生方が一丸となってこういう体験を考えてくださって心からありがたいなと思います。こういう時に前からお話ししていますが、中学校の先生方の負担というところも申し訳ないと思っているところもありますが、そのところをまた考えていただいて子どものためにということで考えてくださっていることに本当に心からお礼申し上げたいと思います。

**部会長:** 両校の校長先生がとても仲が良いことと、職員が皆理解し合っているということ、今までの研究授業やその他でも交流し合っているという上で出来ていることがありがたいことだなと感じています。私も子どもで出来る応援がありましたらいくらでもしたいと思います。こういった取り組み、まさに県下初めての取り組みですが小中一貫ということで踏み切っていただきました。保護者の皆様やその他皆さんの方からご意見、ご要望等ありましたらお願いいたします。

**委員:** とても珍しいことなので良いことだと思いますが、私が子どもだったら苦手な先輩とか苦手な後輩というものがあると思います。そういうものを上手くキャッチしておかないと、中学に行ったときにトラブルになったり子どもが嫌だなと思ったりすることが無いように、見つけるのが先生は難しいと思いますが小学校でよく好きな仲間分けをするということがありますが、そういう所で少し配慮をしてもらえればと思います。過去に少しトラブルになったということが分かっていたら気を付けてもらえればと思います。

**部会長:** 現在の6年生は私が見ている限りその心配は無かったように思いますが、もし分かたら子どもが一人一人について見えていると思いますのでご配慮いただければと思います。その他にいかがでしょう

か。

**委員**：今回企画していただいて本当にありがたいと思います。お兄ちゃんの時はクラスが入学したての時にまとまらずに不登校しがちな子が1人だけじゃなくて何人もいた経験があります。なので入っていく時には少し中学のことを知ってもらえたらいいなと思っていたので今回そういう経験をさせていただくということは本当に貴重でありありがたいと思っています。

**部長**：その他にいかがでしょうか。

**委員**：この企画はすごく貴重だというお話がありましたが同意見でございます。うちの子は上の子が中学2年生で、下の子が6年生というところで入学するというところで兄弟同士でも早く行きたいと言っています。下の子は不安になってしまう感じもあるので、こういった企画みたいなものがあるとグラデーションでゆっくりと雰囲気や掴めたりだとかというところもあると思いますので、結構他の子たちも全員ではないでしょうけど楽しみしているお子さんがいるようです。ですのでこういう貴重な体験をさせていただくことに感謝を申し上げたいと思います。

**部長**：その他にいかがでしょうか。それでは皆で見守っていきたいと思います。両校の校長先生にお願いをしますが、この会の関係者も子ども様子が見たいということになれば4日間のどこでも参観することが許されるでしょうか。この日はまずいということがあればお聞かせいただければと思います。

**委員**：中学校としてはいつでも保護者であっても来ていただいて構わないです。

**部長**：子どもの責任を持っている小学校としてはどうでしょうか。

**委員**：まったく同じでございます。

**部長**：ありがとうございます。皆さんいつでも見に行ってもいいよということですので是非見に行きましょう。私も一度は見に行きたいなと思っております。県下初めての試みですので楽しみであります。それでは次に移ります。

#### (4) 保護者からの意見・要望等について

**部長**：保護者の皆さん、PTAの関係等でご意見とうありましたらお願い

いたします。

**委員**：今いろいろお話いただいたように進めていただいて子どもたちの自信をつけてもらえたらと思いますが、保護者サイドだとどこまで浸透しているというか、どういう風に家庭の中で今日は学校でこういうことがあってという実感というか小中学校で進めてくれていることを、こういう所に力を入れてくれているんだなと実感してくれているかと思ったらどうかなという思いがあります。PTAとかで話を聞くにしてもそういう話があまり出てきません。私の子は6年生なので6年生のお母さんたちにはこの体験ってすごいんだよという話をしているんですけども、皆さんはこれが当たり前と思っているんじゃないかなという思いもありますのでどうやって伝えていったらいいかなと思っております。

**部長**：学校側もプリント等で色々と知らせていただいているんだけど、保護者の皆さんの仲間内で話をどんどん出していただけて伝えあってくることが浸透する元だと思いますので、今おっしゃられた通りぜひ横へ広げていただければと思います。その他にいかがでしょうか。

**委員**：今の中学校の体験学習は4日間という連続の中の体験をさせるということは初の体験だと思いますがとてもいいことだと思います。学校としては頑張っているんだけど、例えば教育委員会とかで外部への情報発信ということは考えておられるのでしょうか。最近新聞を見ていて少し前だと一面をめくるとよく筑北村統合に関してとか学校に関しての記事が載っていて私もそこを見る癖がついたんですけども、最近は載ってこないなというイメージが強いんです。こういうことは館報などの村の中の情報源に載せてこういう事やったよ、こういう事あったよということも大事だと思いますが出来ることであればもっと外部の所から麻績住民を刺激するような情報誌に載せてしまって、こういう事をやっているんだねと違う地域の人からも麻績の村民たちが言われるくらい、麻績の人達を考えるだけでなく周りの外からも麻績ではこういう事やっているんだねと思われるくらい情報は発信したほうが良いと感じます。出来ることであればどんな体験になるのか、どんな結果になるのかは分かりませんがこういうことも子どもに訴えるというか情報提供してみることも良いことでは無いかと感じています。ですのでその辺も考えて

いただければと思います。

**部会長**：ありがとうございます。本当にその通りだと思います。前回中学の研究発表については出ました。文科省指定校としてと簡単に書いてありますが、国の文部科学省が筑北中学でお願いと指定してきているということなのでとてもすごいことです。県下でこれだけ学校がある中で筑北中学へお願いという国からのお願いなので大変なことです。筑北中学はそれに応えるだけの中学になっているということを経験に大きく書いて欲しかったと思います。良いことは秘密にすることではありませんので積極的に展開していきたいと思います。他にございますでしょうか。

**委員**：私の子も小中から離れてしまって直の声はあまり聞けないんですが、当初から比べると大分一貫教育ということに対しての不安と何が起きるのということが言われなくなったということは大分理解が進んでいるのかなと客観的に感じています。

**委員**：今の中学の子どももデリケートな時期に入ってきていまして、PTAとかのことであってもPTAということが強くなって先生たちに言うという昨今の中で、PTAなので親と先生との連携や協力は絶対に必要だと思います。連携も含めて村の方たちとも連携で、どこかが強すぎたはいけないというバランスを保ちながら協力していきけることは協力してやっていかないと子どもに影響してきますので、どこかが膨らんでしまうと子どもたちもざわざわしたりとか落ち着かなくなるので先生と協力しながらやっていこうと思います。

**部会長**：ありがとうございます。その他によろしいでしょうか。それでは次に進みます。

## (5) その他

**部会長**：全体を通して何かありましたらお願いいたします。

**委員**：小学生で体験入学が嫌だなという子はいないんでしょうか。

**委員**：私が見ている中ではいませんが不安はあったと思いますので確認をすればよかったかと思います。

**委員**：逆に嫌だなと言って体験入学をしたことによってギャップが出来てしまうということも思っていました。高野教頭先生のお話にもありましたが一日の体験入学で何が起きたか分からないまま終わっ

てしまうのが今度は4日間ということで自分としては中一ギャップの軽減とか解消に繋がっていくことを期待しています。

**部会長:**ありがとうございます。先ほどの塚原委員のお話にも関連させて慎重に、その辺は小学校ですから一人一人見えていて対応していただけたと思いますがよろしく願いいたします。ただ今保護者の関係で新たに資料が配られましたのでそちらの説明をお願いいたします。

**委員:**麻績小学校のPTAの組織、事業の見直しということで去年作って見たものです。PTAの会員がどんどんと少なくなっていく中で組織の事業を見直すということが必須という思いがありましたのでこれで進めてまいりました。麻績小学校PTAの役員は二役ということになっています。まだ進めていないのが地区の統合という部分については話が進んでいないということですが、皆さんに見ていただいてこういうことを進めてはどうかということでは違ったほうが良いのではという事でもいいですし、令和2年以降うまく進んでいけばいいかなと思って本日お配りしました。次にPTAの小中合同の関係です。漠然と合同という風になってしまうと簡単ですけども組織化するにはかなり労力がいると思いますので、去年の時点でこういう風にしたらどうかという図を2パターン作ってあります。これが正しいということでは無くて土台というか、こういう例もあるという思いで実際に進んでいったらどうかという思いがあります。小中学校の事業をまったく一緒にするのではなくて、事業はそれぞれ小中別で当たり前だけでも情報組織とかがありますのでそこら辺のところを合同でやっていけばどうかという案がここに含まれております。この所でしっかりやっついこうということではありませんので、徐々に徐々に皆さんと足並みを少しでも揃えていければと思ってお配りしました。

**部会長:**ありがとうございます。皆さんじっくり見ていただいてご意見がありましたらPTA会長さんの方へお伝えください。PTA先輩方々もいらっしゃいますのでご意見を会長さんの方へ寄せていただければと思います。PTAの方でも着々と一貫を考えてくれていることに感謝でございます。

**委員:**これは中学校のPTAと打合せをしている案でしょうか。

**委員:**まだしていません。私が去年作って見た案です。これを進めていきましようということでは無くて、これを見て何となく頭の中で想像

できるような形に繋げてもらえばと思っていますのでこれからになります。

**委員**：出てくるのであれば中学校のPTAはこういう風にという案も入っていますので、ぜひまずは中学校のPTAとも話をさせていただいてそれから案として公に出していただくことの方が良いかなと感じました。中学校としては突然の話で、案がここまで会長が何名という形で小学校の方で作っているということについては突然の感じがしたので、ぜひ両校ですり合わせをしながら進めていくのが良いかなと思いましたのでよろしく願いいたします。

**委員**：小学校と同じ校舎でやっていないので一つになってしまうと会長さんになる方は色々な負担は減ると思いますが、あっちのPTA作業、こっちの作業、運動会というようにあっちに行ったりこっちに行ったりということも懸念しなければと課題はあるかと思います。

**委員**：その所をこれから一緒にお話していければと思います。

**部会長**：ありがとうございます。これはまだ公式に外へ出ているものではなくて、この仲間だからということで配っていただいたものだと思いますので扱いは気を付けていただきますようお願いいたします。そんなことを含みながら村立になった時にさてどうしますではなくて、こんな方向も考えたらどうだろうということの方がスタートは切りやすいと思いますので、少しずつお互いに温めながら進めていただくということによろしいでしょうか。

**委員**：この案が一人歩きしてしまうと、それこそ中学校の会は全く知らないところで中学校はこういう風に決まっているという勘違いをしてしまうとこれから話し合いを進めていく上でもかえって遠回りしてしまうと思いますので、現時点ではこの会でということだけで扱っていただければと思います。

**委員**：他の所には出していません。去年の案をお見せして春から合同でどうかという話が出ていますので、ここでどんな具合かなというものを皆さんに見ていただいて、私は来年PTA会長を退きますのでそういう点でも皆さん1年で交代していきますのでどういう風に引き継いでいくかということも課題はすごくあります。卒業してしまったら終わりですので、これで進んでくださいという訳ではなくて皆さんにここでやっていこうかという決意を持ってほしくてお配りしました。

**部会長**：その他にいかがでしょうか。それでは副部会長の方でまとめをお願いします。

**副部会長**：今日のこの会議の目玉は小学生の中学体験授業だと思います。小学校の教頭先生からも日々これが一貫教育だという話がありましたし、中学の教頭先生からも小学生の体験入学というのが小中一貫の目玉という話もありました。また、小学校のPTA会長からはそれが父兄にどの程度浸透しているのかという疑問の声もありましたけれども、それと相反する県下でも例が無いという大変目新しいことは相反すると思いますが小中一貫になってきていることが当たり前と若い保護者の方も理解が進んでいるという見解もありましたけれども、そういう自然の流れの中で小中一貫の全体が向かっているのかなとことを感じております。カリキュラム等いろいろ見させていただいて小中学校の先生方いろいろとご苦労あると思いますけれども、新しいことにはつまずきもあったり成功体験もあったりすると思いますので有意義な形でやっていただければと思います。中一ギャップというのは前から言われていることですが、小学校4年生の時の6年生が中学3年生になっているということで顔見知りかもしれませんけれども中学に行くと制服姿でいたりする中で、家の中で兄弟でいても家庭の中の感じと中学に行った時の先輩としての形ではまた違ってくると思いますのでそういう体験を今の時期に4日間出来るということは非常に有意義だと思います。先生方に置かれましたはまたよろしく願いいたします。広報という話もありましたので事務局の方で市民タイムス等の連絡を取って頂いて写真で出していただけだと思いますのでよろしく願いいたします。改革というのはある程度挙げてみないと意見が出てこないという所があると思いますので、やる前からどうのこうのでは無くて一応挙げてみるということはいいと思います。PTAの改革についてもこれから紆余曲折あると思います。そういう中で挙げていくということはいいと思います。そういう中で色々な意見が集約できればいいかなと思います。

**部会長**：それでは次回の開催日程についてお願いいたします。

#### 4. 次回開催日程

令和2年2月10日(月) 17時00分 ～

**部会長**：最後に教育長からお願いいたします。

**教育長**：大変ご苦勞様でございます。短い時間の中でやっていただいてありがとうございます。私からは感謝の言葉しかありませんが、皆さん真剣に考えていただいて続々と事業化されていくということは非常にありがたいなと思っております。今後ともぜひよろしくお願いしたいなと思います。出来るだけ教育委員会としても支援をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## 5. 閉会

**教育次長**：長時間にわたりお疲れ様でございました。以上で、麻績村の教育方針に関する研究検討委員会第17回の保育園・学校部会を閉会いたします。

(閉会 18:18)